5領域とのつながりを明確化した支援プログラム		就労準備型放課後等デイサービスひまわりJOB 磐田駅前校
領域	(ア)健康・生活	
ねらい	(a)健康状態の維持・改善 (b)生活のリズムや生活習慣の形成 (c)基本的生活スキルの獲得	ひまわりで行っている支援の内容を記載してください。 また、今後やってみたいこと、やるべきだと思うことを記載してください。(文章の前に〇をつけてください)
(a)健康状態の把握	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。	・利用児自身で検温し、体温チェック表に記載している。 ・利用児が使いやすい様に消毒を設置。 ・校外学習から戻った際は、手洗いの声掛けをしている。
(b)健康の増進	健康な生活のリズムを身に付け、楽しんで食事ができるよう支援する。また、病気の予防や安全への配慮を行う。	・室内運動のカリキュラムを取り入れている。 ・カリキュラムの中で体や病気、食育の知識を伝えている。 〇食育の一環として野菜を育てて収穫する体験を取り入れたい。 ・カリキュラムに運動が組み込まれている為、基礎的な体力づくりは行えている。 ・“一汁三菜”や“まごわやさしい”など栄養についての支援をしている。
(c)リハビリテーションの実施	日常生活や社会生活が営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。	・支援室に入れない利用児には個別支援(事務室)をし、また集団に入りやすいような環境づくりを行っている。 ・トイレの使用や手洗い場等、他者も使うことを前提とした公共の場を意識した支援を行っている。 ・不登校の状態にある利用児に対して、JOBを利用することで安らぎを感じたり、様々な経験から自信を持ったりし、学校へ通う為の情緒が整うよう支援している。
(d)基本的生活スキルの獲得	身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄など生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。	・季節、気候の変化に応じて衣類を変えること、水分量の調節等、生活に必要な情報について、掲示や声掛けをしている。 ・靴や鞄などは自ら所定の場にしまうことや、自己管理を促している。 ・荷物置き場は一人分のスペースがわかるようテープで区切り示している。 ・提出物等の期限を確認し、自ら提出ができるよう促している。
(e)構造化など生活環境を整える	生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	・月間のスケジュールで当日の活動を提示している。 ・時間を固定化し、変更がある際は全体に周知している。 ・お便りを見やすい位置に掲示し、自己管理ができるようにしている。 ・1日支援の際は、分単位のスケジュール提示やスケジュール表を渡している。 ・支援室に到着後の流れを視覚化している。 ・活動の開始時刻や、開始前までに行うことの流れを視覚化している。 ・クールダウンしたい時や集中が続かない時等、利用児と相談し別室に移動または特性に応じた対応を行っている。
領域	(イ)運動・感覚	
ねらい	(a)姿勢と運動・動作の向上 (b)姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c)保有する感覚の総合的な活用	
(a)姿勢と運動・動作の基本的技能の向上	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。	・室内運動で柔軟・有酸素運動を行い、筋持久力の強化に繋げている。 ・活動中の姿勢に対する声掛けをしている。 ・姿勢を保持しにくい場合は、簡単なストレッチ等を取り入れることでメリハリをつけ、姿勢維持に意識が向くようにしている。 ・室内運動等を通し、姿勢維持の為の筋力増進や、身体の不器用さを改善する為のプログラムを取り入れている。
(b)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。	・室内運動等を通し、姿勢保持と筋力増進、身体の不器用さを改善する為のプログラムを取り入れている。
(c)身体の移動能力の向上	自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援をする。	・車椅子の利用児に対しては、本人の申し出以外の場では見守り支援を行っている。 ・足が不自由な利用児に対しては、歩行時に遅れを取ってしまう場合、段差が大きい階段、傾斜が急な階段では付き添い支援を行っている。
(d)保有する感覚の活用	保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊びなどを通して支援する。	・指先訓練や脳トレ、調理実習等を行っている。 ・感覚に関するプログラム(スライム)等を取り入れている。 ・視覚に関するプログラム(ナンバータッチ・間違い探し・宝探し)等を取り入れている。
(e)感覚の補助及び代行手段の活用	保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器など各種の補助機器を活用できるよう支援する。	・各自で用意した器具(イヤーマフ等)の使用を許可している。 ・移動時間が長い、人混みの多い場所等に行く場合は、事前に保護者へ連絡している。 ・漢字などの表記が分かりにくい場合は、個別に対応している。 ・見えやすい色のペンを使用している。
(f)感覚過敏への対応	感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、特に感覚の過敏さや認知の偏りなどの個々の特性に配慮する。	・制作時、素手で触ることに抵抗感の素材(ボンドやのり)には、手袋をする等の対策を取っている。 ・苦手な食べ物は、少しでも食べられるよう美味しさなどを知らせるが、無理であれば強要しない。 ・聴覚過敏の利用児に対して、ヘッドホンやイヤホンを付けるように個別で促している。
領域	(ウ)認知・行動	
ねらい	(a)認知や行動の発達 (b)空間・時間、数などの概念形成の習得 (c)対象や外部環境の認知を適切な行動に改善	
(a)感覚や認知の活用	視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す	・指先訓練や脳トレ、調理実習等を行っている。 ・感覚に関するプログラム(スライム・箱の中身を当てるゲーム)等を取り入れている。 ・積み木を使い視覚から空間を理解する活動を行っている。

	支援を行う。	
(b)知覚から行動への認知過程の発達	環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。	・相手の表情を見てどう行動に移すか等のカリキュラムを取り入れている。 ・地図を渡し目的地まで他児と移動する等の校外学習を取り入れている。 ・授業に関する資料を配布し、次に行う活動を提示している。 ・手順書を作成し、各自確認して活動が行えるようにしている。
(c)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。	・基礎知識で天気について指導し、校外学習に行く際にどのような対策をとるべきか(雨具の種類と準備等)考えるように伝えている。 ・カリキュラムを通し様々な基礎的な知識の獲得を目指している。 ・絵具を使った色の変化やおもりを使った重さに対する知識の獲得を目指している。
(d)数などの習得	数字・数詞対応課題、計数課題、数唱課題などの数概念の習得のための支援を行う。	・お金の両替や計算、お買い物訓練を行っている。 ・お金の勉強を通し、お金の概念の理解、数の理解、大きさの理解を促している。位の理解について音読することによって理解を深めている。 ・重さと単位についてカリキュラムに取り入れている。 ・調理実習の際、人数×分量、軽量等で意図的な四則演算を取り入れ、計算の理解に繋げている。 〇調理実習をした際、分数(ピザを8等分にする等)の感覚が身に付くよう取り入れたい。
(e)行動障害への対応	感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。	・行動障害が表れやすい利用児には、支援員1名が必ず対応・見守りの配置をしている。 ・他児との関わりでは、支援員が代弁・橋渡しをすることで、心地よい交流ができるようにしている。 ・交流に関心の薄い利用児や、理解できず固まってしまう利用児に対し、個別に対応している。活動しやすい場になるよう支援員が間に入る等行っている。
領域	(エ)言語・コミュニケーション	
ねらい	(a)言語の形成・活用及び受容・表出 (b)コミュニケーションの基礎的能力の向上 (c)コミュニケーション手段の選択と活用	
(a)言語の形成と活用	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。	・状況を表す言葉やイラストを提示した後、利用児の実体験や感情が言葉と結びつくよう意図的な言葉掛けをしている。 ・感想を伝えたり、書いたりすることが難しい児には、印象に残った出来事のみを引き出し、言語化・文章化できるよう支援している。 ・会話を通し語彙を増やしている。 ・言葉と意味を結びつける為、今している動作について質問する等個別に対応している。
(b)受容言語と表出言語の支援	話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。	・カリキュラム内でグループワークの時間を設けている。 ・SST、脳トレでゲーム感覚でコミュニケーションの練習を行っている。 ・助詞の使い方を促している。 ・文章を記入することにより、正しい文の書き方や文字の記載を促している。 ・SST を通し、自分の考えを持つ、伝えることの経験値を高めている。
(c)人と相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	表情や身振りなどの非言語的コミュニュケーション手段などを用いて意思の伝達ができるよう支援する。	・SST、ビジネスマナーで、日常で使うジェスチャー(電話等)を指導している。 ・SST を通しコミュニケーションをとる上で重要な点に関して学び、ボードゲームを通して実践している。 ・ジェスチャーゲーム等を通して、表現力や相手の様子から読みとる力を高めている。
(d)読み書き能力の獲得のための支援	聴覚に障害のある子どもや発達障害の子どもなどの障害特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。	・縦書きが苦手な児には、横書きの用紙を渡したり、わかりやすい読み方(線引きを当てる)を知らせたりしている。 ・文字について間違った認識をしている場合には、見やすく支援者が書き直す等している。 ・文字のバランスを取りにくい児には、マス目のプリント(業務日誌)を提供している。
(e)コミュニケーション機器の活用	各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、意思伝達が円滑にできるよう支援する。	・プラカードで意思疎通を取れるようにしている。 ・全員非言語コミュニケーションで活動するカリキュラムを取り入れている(緘黙傾向の児の利用日に合わせる)。 ・電話のかけ方、メールの送り方、SNS の使い方をカリキュラムに取り入れ、適切な使い方(連絡の仕方)を教えている。
(f)文字言語、手話、動作によるサインの活用	手話を含む言語、文字の表示、点字、音声、触覚、平易な表現などによる多様なコミュニケーション手段を活用できるよう支援する。	・点字のカリキュラムを取り入れた(身の回りの点字や意味、点字作り等)。 〇手話のカリキュラムを取り入れたい。 〇終わり等が分かりづらい場合には、学校で使われているサインを使用したい。
領域	(オ)人間関係・社会性	
ねらい	(a)他者とのかかわり(人間関係)の形成 (b)自己の理解と行動の調整 (c)仲間づくりと集団への参加	
(a)アタッチメント(愛着行動)の形成	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。	・活動外でもプライベートな話を楽しめる雰囲気づくりをしている。 ・支援員や友達と過ごすことで人と関わる楽しさを感じ、SST や集団遊びを通し、距離感や思いやりに気づき良好な関係作りを促している。 ・必要な場面では、支援員が仲介し、お互いに相手の思いを理解できるようにしている。
(b)模倣行動の支援	小さな動き、大きな動き、口の動きなどを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。	・カリキュラムの中で社会的行動(お辞儀や所作)が身につくよう支援している。 ・模範行動があった場合は皆の前で褒め、周りの意識にも繋げている。
(c)一人遊びから共同遊びへの支援	周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から、役割分担を作ったり、ルールを持って遊ぶ協働遊びを通して、社会	・カリキュラム(SST、実践、調理実習)で意図的に支援している。 〇デジタル機器を活用し、調べ学習をしたりプレゼンをしたり等のグループ活動を行いたい。 ・他者に関心が向くような環境作りや校外学習を通し、利用児同士が交流できる機会を作っている。

	性の発達を支援する。	・活動を通して、他者と過ごすマナーやルールについて理解を深めている。
(d)自己の理解とコントロールのための支援	自分のできること、できないことなど自分の行動の特徴を理解し、自己肯定感を強める支援を行う。	・カリキュラムの中で好き・嫌い、得意・苦手、長所・短所が認知できるよう支援している。また、できない部分はどう対応したら良いか伝えている。 ・苦手意識のあるものについては、抵抗の少ない課題を出し、継続的に支援(ステップアップ)することで達成や成長の喜びを感じ、自己肯定感に繋げている。 ・実践や SST を通し、自己理解を深める機会を提供している。 ・得意な作業は更に上達するように支援を行い、不得意な作業に関しては寄り添いながらも自己肯定感に繋がるような支援を行っている。
(e)集団への参加への支援	集団に参加するための手順やルールを理解したり、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	・集団活動が苦手な児には、特に参加してほしい時間をピックアップしている。また、その場に居られたことを認めている。 ・集団で活動する課題を提示し、利用児間で話し合いができるよう促している。 ・困難さが見受けられる場合には、支援員が間に入り、話すきっかけ作り等を行っている。 ・活動前に“楽しい状況・楽しくない状況”、“協力できている状況・できていない状況”等について確認し、共通認識を持ったうえで参加できるようにしている。